

# 平成 21 年度第 3 回みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会 議事録

日時：平成 21 年 12 月 16 日（水） 午前 10 時～午前 12 時

場所：緑区役所 第 5 会議室（ピコ中山 2 階）

出席：村井委員長、井上副委員長、松岡副委員長、市木委員、中島委員、松浦委員、鈴木委員、小林委員、長嶋委員

（事務局：監物緑区福祉保健センター長、津田福祉保健課長、山本事業企画担当係長、林、児玉、井口、中丸緑区社協事務局長、草苧緑区社協事務局次長、浅木）

（その他福祉保健センター等職員：西川高齢・障害支援課長、大庭こども家庭支援課長、間瀬保険年金課長、渡辺生活衛生課長、竹内地域振興課長）

（敬称略）

## 内 容

### 開会あいさつ

- ・ 村井委員長よりあいさつ

### 議事 1 第 2 期区計画について

- ・ 資料 1 に沿って、第 2 期みどりのわ・ささえ愛プラン区計画基本案について、事務局案を提示。事務局案に対して委員からの意見を受けて、第 2 期区計画基本案を平成 22 年 3 月までに構築していく。

《事務局(案)の概要》

#### (1) 基本理念について

第 1 期区計画を踏襲。

#### (2) 基本目標・小目標について

第 1 期区計画を踏襲、基本目標・小目標の見せ方について工夫をする。

#### (3) 現状と課題、具体的な取り組み、期待される担い手、内容等について

区民アンケート結果から集約し、地区別計画の策定状況と照らし合わせて再構築する。地域での取り組み概況等からの集約等を行う。

### 質疑・ご意見

長嶋委員：大変、立派な目標・理念で結構ですが、現実にとどのように実行していくのかわからない点がある。要するに指導者・リーダーとして引っ張っていく人は、自治会長、民生委員さんたちにお願ひすることになると思うが、果たして、基本目標・小目標を実践していくには、どのようにして各地区をとりまとめていくかという考え方を教えていただきたい。

村井委員長：質問の意図は、計画を実行する上での推進体制及び実行性を持たせるための体制はどのように考えているのかということだと思う。地区社協、自治会等地域の実情に合わせて、体制を作っていくことを前提に、その中核としては 11 地区のそれぞれの小地域における住民組織が主体となるわけで、特定のどこかが進めなくてはいけなというものではないと思う。ただ、事務局としては住民に対してしっかりと舞台を作ってあげて、活動の機会を与えていかないとうまくいかないと思う。また、地区社協・自治会等の活動を飛び越えて進めるのも、地域の文化を壊しかねないので、地域の中からの推薦を考慮することや、今まで活動されている方そのものが担い手になっていくことが大切になってくると思う。

事務局：誰が担うとか、役割を決めるわけではなく、お互いに支えたり支えあったりという役割があるわけで、誰もがそれぞれの自分の立場で参加できる計画だと考えている。また、この計画は実行するために作る計画なので、これを地域に投じて達成していくためにはどうしたら良いかを地区別に検討していくわけで、もう少し地域の実情に合わせた話合いをするということで今後 3 回に渡って地区別計画策定委員会の開催を考えている。

松岡委員：この計画では何をやるかが一番重要であって、言われたからやるのでは負担感ばかりになっ

てしまう。地域課題に合わせて、皆さんで話し合いをもって解決する場を作るようにしていかないと、またやらされるのではという印象をもってしまう。つまり、何をやるのかを地域単位で考えて解決していくことが、このプランそのものであることを認識することが必要だと思う。策定単位も今までのものではなく、一般の区民も参加できるような話し合いの場を持つようにして役職以外の人も担い手となり、計画策定だけでは終わらせないようにすることが大切だと思う。また、住民一人ひとりが自分の問題・課題として捉えられるような話し合いの場を作っていたらと思う。

松浦委員：地区別計画をこれから作る時に、例えば、新治西部は3つの自治会からなっていて、自治会単位でみると住民の出入りがあまり少ないところと、アパート・マンションがたくさんできて変わってきているところもあって、それぞれの地区の中でも状況が違ってきている。このような中で、地区をまとめて捉えるのには、どうしたら良いかが今後の課題であると思う。各自治会単位で考える場合でも、ずいぶん実情が違ってきているように思える。

村井委員長：基本目標1の「つながりを大切にするまちづくり」はあらためて究極な課題であることがわかったので、基本目標2、3、4、5は、基本目標1に収束するものであると思う。つまり、基本目標1を実現するために基本目標2、3、4、5を推進していくものとして、「つながりを大切にするまちづくり」を上位概念にもってくる必要があると思う。また、同時に基本理念にも「つながり」という言葉を入れることで手直しが必要になると思う。例えば、サブタイトルを「一人ひとりが主役・共に支えあいつながりのあるまちづくり」として、「つながり」が基本目標の究極のトップにあるとともに理念にも反映させるべきだと思う。それと、1期から2期に移るときに考慮すべきことは評価という視点である。2期計画では可能なかぎり、プランをどう評価するかという視点で、評価を可能にするような書き方を検討していただきたい。例えば、推進プロセスとして、各年度において1年ごとのおおまかな目安を作って、進め方の数値目標や質的な評価目標を示せたら良いと思う。実は、評価ができない計画は反省しかできなく、具体性のある目標は評価することができる。推進プロセスがあれば、評価することもでき、改善していくこともできると思う。

## 議事2 地区別計画策定について

- 資料2に沿って、地区支援チーム活動の手引き Vol.2 の改訂箇所から、地区別計画策定に向けた進捗状況を説明。

《地区支援チーム活動の手引きの主な改訂箇所》

～本編～

- (1) 4頁 策定進行表
- (2) 8頁 地区別計画策定委員会の開催日時・場所
- (3) 9頁 地区別計画策定委員会の標準的な流れ
- (4) 地区支援チーム一覧

～資料編～

- (1) 資料1 確認シート
- (2) 資料2 第1回地区別計画策定委員会報告書(案)
- (3) 地区別計画のチラシ

## 質疑・ご意見

松浦委員：地区別計画策定においては、地区支援チーム活動の手引きにある5つの基本目標の中から、話し合いの中ででてきたものを特にここということで、地区別に選んでやるということなのか。

事務局：資料では、具体的に基本目標1～5を示しているが、何か具体的に選んでやるのではなく、あくまでも、1期計画を振り返ったときに、地区の課題としてできなかったことをやるわけではなく、評価できていることを認めた上での足りないものや何か課題があるのではないかとということをお話していただきたい。つまり、地区の話し合いのプロセスをまとめた結果として基本目

標に収束できれば良いと思う。地区別計画においての取りまとめ方については、地区の特徴をいかした内容で良いと考えている。

村井委員長：基本目標1～5まではいったん各地区において評価しても良いと思う。それと、今回、この後にでくる区民アンケート結果については地区別にも集計できるので、具体的な区全体の課題として、それも踏まえて検証していく必要があると思う。また、基本目標1～5は緑区としての大きなフレームで捉えたものであるため、各地区の実情にまんべんなくかかってくるとは思いいにくく、大きな意味での検証ではあるが各地区の実情を必ずしも示しているとは言えない。そういう意味では基本目標1～5の視点でいったん評価しつつ、各地区の特性としての強みや弱みとしての課題を話合っていくことが大切だと思う。

中島委員：「地区支援チーム活動の手引き」はよくできていると思うが、ただ、実態活動についてはイメージがしにくいことはやむを得ないと思う。東本郷単位自治会の活動に関わっているが、平成21年11月から12月にかけて実際にガイドラインに沿った形で委員の選出が進められ、地区別計画も目標に近いところまで実現できる可能性があるという感触はもっている。その中で、例えば、東本郷地区では今年の夏頃、地区社協が中心となって、地区別計画策定ステップ事業を立ち上げ、7頁にある委員構成に沿った形で事業を立ち上げた。地区活動の主体でもある連合自治会からも参画して、構成がふくらんできている状況だが、ステップ事業に関与されている委員の方々については、地域全体でささえあうという視点からこの計画が何なのかということが良く見えてこない面もある。それを地域住民に周知していくことは並たいていのことではないと思う。しかし、自分が主役で自分達のためにやるんだということは重要で、それを住民の方に意識づけていくことが、活動が地についたものとするための重要な要素になってくると思う。

事務局：(地区別計画策定ステップ事業の説明)

～東本郷地区のステップ事業について、委員から話しがあったので、議事4で説明する予定の資料4-1地区計画策定ステップ事業について、事務局から東本郷地区の箇所を補足説明。～

松岡委員：計画は誰がやるのか、誰と一緒にやっていきたいのかを考えていくこと、また、今やっている活動自体を広げていくことが大事だと思う。実際、皆さんがやっている活動こそが地域の中での推進であって、それを広げいくイメージで、何をやっていこうかということとして推進していく視点から時間をとって考えていくことが必要だと思う。せっかく何年もかけてやってきているみどりのわ・ささえ愛プランについて、実際に地域で地道に活動している人たちの気持ちを汲んで、力を注いでいけるような計画策定であって欲しいと思う。

市木委員：今、やっていることを大事にしていく。そして、成功例をアピールしていくことは大事なことだと思う。策定の作業ではできないことを掘り出すことで考えることが多く、暗いイメージの会議になってしまうと思う。逆に、これもやっている、あれもやっているというような進め方も大切だと思う。例えば、地区の明るい具体例としては、東本郷地区で活動が始まっているものとして、緑養護学校ではこどもの下校の見守りの見学をしてくださる方を応募したところ20人を越える方が来てくださった。このようなことは、東本郷の方々にお伝え返しをしていけば良いと思う。これは明るい話なので、こまめに返していくことで、これが、みどりのわ・ささえ愛プランの推進の一環なんだとわかってくださることで地域の皆さんに明るい気持ちで気軽に参加していただけることにつながっていくと思う。

村井委員長：資料編にある地区別計画に関するチラシについては、住民中心の地域福祉を推進していくことが地区別計画であることをもっとはっきり示しても良いのではないかと思う。「住民中心」、「住民主体」というメッセージをもっと大きく出しても良いと思う。

### 議事3 区民アンケートについて

- ・ 資料3-1に沿って、区民アンケートの調査結果について、(1)調査票の回収状況、(2)調査結果(別紙にて詳細説明)、(3)今後のスケジュール等を説明。
- ・ 資料3別紙に沿って、区民アンケート調査結果(速報)として、(1)単純集計、(2)一部クロス集計、(3)自由意見欄、(4)経年変化の集計等を報告。

## 質疑・ご意見

中島委員：問9の自治会加入の状況について、緑区全住民の自治会加入状況を教えて欲しい。また、問27の「防災ささえあいカード」の認知度として、「知っている」が11.8%なのに比較的高い率だという解説はどうしてなのか。

事務局：問9の関連の緑区全住民の自治会加入状況は、横浜市の平均よりも少し高いくらいだと思うが、正確な数字は後日、回答します。また、問27の「防災ささえあいカード」で「知っている」という回答は11.8%ですが、これは、問3における年齢構成別の回答数で高齢者（65歳以上）の方の回答が30%以上ある中で、そのうち11.8%の認知度であるため、この取り組みが高齢者対象の取り組みだと考えた場合、比較的高い認知度であると考えた。

中島委員：「防災ささえあいカード」の取り組みでは、支援して欲しい人がいる反面、支援する側が知らなければ、体制ができないのではないかと。

村井委員長：確かに、そもそも論として考えた場合は、助けて欲しい人は認知していても、支援する側が知らなくては意味がないので、あらためて別のところで検討して欲しい。

また、本アンケートは中間報告なので、本日はお持ち帰りいただいて、各委員で気づいたことがあれば、事務局に向けてお伝えして欲しい。

## 議事4 平成21年度各種事業の報告について

- ・ 資料4-1に沿って、(1)地区別計画策定ステップ事業、(2)地域ボランティア相談室・ボランティアセンターの設置・運営状況、(3)オトナの一期一会開催状況について説明。
- ・ 資料4-2に沿って、小中学校における福祉教育プログラムの実施状況（緑ハートバリアフリー実行委員会の活動）について説明。

## 質疑・ご意見

村井委員長：実践的な地域福祉推進の取り組みの紹介であったが、これがまさに地域における強みであると思うが、その中で特筆すべき点はボランティアセンターが立ち上がっているところだと思う。今後は、ボランティアセンターの運営の円滑化についての検討や実際の相談件数・相談内容等の統計情報も還元していただければと思う。地域の課題は地域に戻せる仕組みが必要であって、各地域での取り組みは地域ごとに交換し合って、また、ノウハウを共有していければと思う。

## 議事5 その他

- ・ 委員からその他ご意見、情報提供等。

## 質疑・ご意見

井上委員：区民アンケートについては、9月の区連会において連合自治会向けの説明があったが、その後、実施時期は10月中旬から11月上旬に行っているのは、時間的に少し問題があったのではないかと思う。もう少し余裕をもって、事前に周知をしながらの区民アンケートの実施であれば、もっと高い回収率になったのではないかと思う。

## 閉会あいさつ

- ・ 緑区福祉保健センター長よりあいさつ

## 【次回開催日程】

日時：平成22年3月17日(水) 10:00～12:00 緑区役所第1会議室で開催予定